

教育委員会定例会会議録

開催日時	令和6年11月28日(木) 午前10時30分
開催場所	リパリス1階会議室
出席委員等	委 員 鳴海 良廣 委 員 牛田 裕子
	委 員 金永 俊一 委 員 上西 幸子
	教育長 恵利 修二
欠席委員	なし
上記以外の出席者	教育課長 谷岡潔、専門監 本田敬、課長補佐 広瀬豊、 社会教育係長 森晃一、国スポ推進係長 黒木陽、 学校教育・給食センター係長 稲田宏美
・教育委員会定例会の開催	
1 開会のことば 谷岡課長 ・ただ今から令和6年11月木城町教育委員会定例会を開会します。 2 教育長あいさつ 恵利教育長 ・改めましておはようございます。ここに来てめっきり秋らしく、と思いながら昨日ちよっと暑かったりしておりますけども、もう年の瀬を迎えようとしております。忙しい毎日ではないかなと思いますが、昨日は後程また詳しく報告しますが、東京の国立能楽堂というところで、中之又神楽が舞の発表をさせていただく機会を得まして、半日の神楽披露がありまして、700名ぐらいの東京の方を中心にした方々が見にこられました。素晴らしい舞という好評を得たところでありまして昨日私も戻って帰ったところです。一昨年でしたか国指定になりましたので、保存会の方々の活気、活気づく継承者を引き継がれるような団体にとということで、中之又に白羽の矢があたりまして、そういう場に恵まれたところでありました。皆さん方またさらに活気づかれて帰ってこられたところでございます。様々な11月の行事もあり、後程またご報告したいと思いますが、また、今日も少し頭出しのお話とかでございます。どうぞよろしくお願いいたします。 3 議長選出 [恵利教育長に議長をお願いしました。] 4 11月期定例会会議録署名委員の指名(恵利教育長・金永委員) 5 議題及び議事 (1) 10月期定例会会議録の承認について(恵利教育長・上西委員) [事前に送付していた10月期定例会の会議録について承認され、委員において署名] (2) 事務局報告事項 ①教育長報告 ・[11月行事報告と合わせて報告。] ②行事報告及び行事予定 11月行事報告) 恵利教育長 ・11月2日(土) 木城町民文化祭「作品展示の部」(~5日)	

- ・11月3日（日）木城町民文化祭「生涯学習のつどい大会」
 - ・11月7日（木）文化財保存調査推進会議
木城っ子安全守る隊・応援隊、青色防犯パトロール実施者合同意見交換会
 - ・11月9日（土）木城学園「生涯学習のつどい学校編」
米良の神楽まつり
 - ・11月10日（日）聖和流空手道大会
宮崎県アーチェリー協会「木城町長杯」
 - ・11月12日（火）高鍋町木城町学校音楽祭
宗麟原供養塔供養祭
 - ・11月13日（水）ヘルメットマイスターイベント
 - ・11月14日（木）みどりの会
木城町教育支援会議
 - ・11月16日（土）女性団体連絡協議会「第49回木城町女性のつどい大会」
 - ・11月17日（日）第27回関東木城会「総会・懇親会」
 - ・11月19日（火）自治公民館活性化プロジェクト会議
 - ・11月20日（水）第4回義務教育学校設置に係る研究会
 - ・11月21日（木）例規審議会
 - ・11月26日（火）児湯地区校長会
中之又神楽 国立能楽堂公演
 - ・11月28日（木）定例教育委員会
 - ・11月29日（金）文化財保存調査推進会議
- 以上が11月行事でございます。

恵利教育長

- ・引き続き、12月行事予定について課長からお願いします。
- 12月行事予定)

谷岡課長

- ・12月3日（火）学校人事ヒアリング
 - ・12月4日（水）木城学園後期課程修学旅行（～6日） 関東木城会の皆さんとの交流
 - ・12月7日（土）第15回市町村対抗駅伝競走大会に係る木城町選手団壮行会
比木神社 神事 夜かぐら
 - ・12月8日（日）木城町民グラウンドゴルフ大会
 - ・12月10日（火）2024 台北 U15 野球招待大会出場（井上晴稀君）町長表敬来庁
 - ・12月12日（木）令和6年度市町村教育委員研修会
 - ・12月14日（土）中之又神社 例大祭
 - ・12月15日（日）児湯郡駅伝競走大会
 - ・12月20日（金）みどりの会
 - ・12月24日（火）木城学園 2学期終業式
 - ・12月25日（水）定例教育委員会（予定）
第2回総合教育会議（予定）
 - ・12月27日（金）仕事納め式
 - ・1月1日（水）元旦 令和7年二十歳のつどい
- 12月行事予定については以上です。

恵利教育長

- ・補足を私の方からしておきます。能楽堂公演には県知事がちょうど上京されていたようで昨日お見えになりました。江藤大臣もご挨拶、激励に来られました。ということ

で一応行事予定も含めて説明をさせていただきました。ご質問等ございますでしょうか。

金永委員

- ・9日の土曜日ですけれども学園の方でのつどいですね、私はこれに行けずに申し訳なかったんですけれども、教育長のお話の中で保小連携でなんかされたというお話があったんですけれども、具体的にどういう内容をされたんでしょうか。

恵利教育長

- ・私も聞いた範囲内ですけれども、多分生活科の落ち葉のお面づくりと言うんだと思うんですけれども、落ち葉のお面とかを子供たちが作ったものを保育園の園児を招いて、そのお面をプレゼントしたり、一緒に作ったり、交流ですね。だからそういうことを図ってという話はお聞きました。そういうお兄ちゃんお姉ちゃんたちと交流することで、安心をして小学校の学びはこんななんだなあということで、気づいて、学んで帰ってもらうということです。

金永委員

- ・今の内から交流しておくのはいいんじゃないでしょうかね。この間の県と地区の教育委員会と協議がありましたけれども、私だけ出ましたけれども、やっぱり幼保小連携ですかね、これがなんか盛んに呼ばれてるようで、小学生と保育所・幼稚園と、体育の授業を一緒にしたりとかですね、なんかあちこちでやってるなということで、木城町でもやられたんだなといいことだなと思っております。もう1ついいですか。感想になりますけど、12日の高鍋町木城町学校音楽祭ですね、私も参加させていただきましたが、さすがに9年生の合唱はやっぱり、よかったなと思ってですね。やっぱり単純にいいんじゃないかって、背景にですねやっぱり努力がね、二、三百回なんか練習したみたいですね、やっぱり困難を乗り越えるというか、やっぱりそこは大事なんですけれども、それをしたなあというのがあってね、努力の成果ですよ。それが出たなという感じがしました。何かその冒頭で野球の矢野さんのお話も何か屈することなくとかいう話しが印象に残っていますが、練習100回超したらもう飽きるんですね。合唱コンクールが本番だからしょうがないけど、音楽祭は賞はないのに、さらに追加して練習したっていうから、ものすごい努力だったなと思ってですね。屈することなくやったその成果だったなと、やっぱり私も一番よかったなと。レコーディングして出してもね、評価されるような歌声だったですよ。隅々まで行き届いたいい合唱だったなと思っていました。もう一つよろしいですか。能楽堂でされたその神楽ですね。保存会のメンバーの方がやっておられるということですが、現在は住んでないけれども中之又出身の方ということですかね。

森係長

- ・今回参加されたのが中之又に住まれてる方を中心として、そこに出身者、県外の方も山村留学の元生徒たちなど、この方々がタッグを組まれて参加をされました。

恵利教育長

- ・山村留學生が5名来ていたんですね。東京からも7名ぐらい合流された方もいらっしゃいました。その絆がずっと続いて残ればいいですね。せっかく国指定を受けられたから。

金永委員

- ・もう1ついいですか。19日自治公民館のプロジェクト会議は何か方向性がありますか。なんかこういう方向で進んでいるとか。

森係長

- ・プロジェクト会議について、まず出た内容としては、中間支援組織をどういうふう

持っていくかを諮ったり、何らかの支援をしていく形がいいというところは方向づけはあったんですけどどういった組織体制にするかっていうのを、教育課の中に組織で持つのか、外部がいいのかということも含めて話題が出ました。世代間の繋がり、若い世代を取り込むにはどうしたらいいのか、アイデアとしては、高校生とか大学生のボランティアを募ってそこに認定証を発行する形でやっていく事業が模索できないかと、そういった形でもアイデアが出たということです。

金永委員

- ・支援者が入れば継続する、長続きする可能性はありますね。いいじゃないですかね支援というところが。中間支援、仲介する人でしょうかねそういう人たちが入ることが大事なことで、長続きしていくところが一番問題だから活性化だけでいくとちょっと長続き難しいなと。今年だけ頑張りましょうとはできるんですけど毎年毎年というのは難しい。地域の実情としては、いかに公民館長をまわしていけるかと。これが若手にきてるもんだから、そこで回ればいいんですが。その時に支援していくそういう人がいればね、可能だと思いますので。

恵利教育長

- ・ありがとうございました。それでは2枚の資料が載っているかと思いますが、先ほど申し上げました頭出しということで、こういう方向でやっていければなあということの説明で本田専門監よろしくお願いします。

本田専門監

- ・まずこのカラー刷りのチラシなんですけども、まだまだ案で作成中のものです。これまで移住定住ということについては他課も取り組んできていると思うんですけども、今回教育の面からも、そういった取り組みをしていけたらと。沢山の子供たちにこの学校に来てもらいたいなという思いでこういったチラシを作成しました。なかなか木城町の中にいると当たり前になってますけども外から見ると木城町の取り組みには素晴らしいことがたくさんあります。そういったことを集めてチラシにして、知ってもらおうとまた変わっていくんじゃないかということを考えております。中身はこれ以上にやっているんですけども、まず目を引くものからということで、掲載させてもらいました。まずはこの新しい学校、この自然豊かな暮らしが十分アピールになります。このQRコードには、先日お示ししました文科省の月報の掲載ページだとか、360度カメラで撮影した校舎内の写真、後でまた見てもらいたいんですけども以前作られたものですばらしい物ができています。いろんな部屋を360度で見ることができます。また、いろんな助成制度について改めて見てもらおうと、きっと役立つものがたくさんあると思いますので、ぜひこういったチラシを配布して知ってもらおうという動きを今考えているところです。

恵利教育長

- ・許可が下りればというようなところで検討中であります。やはり人口減少傾向にある島だとか山間部とかいうところは先ほど山村留学という話が出ましたが、山村留学をすると里親さんが必要になったり、寮が必要になってくるので、すぐすぐにはそれってなかなか難しいので、よく調べてみると、親子留学みたいなのをねらって、家族で来てもらうのもいいんですが、その子供に応じて木城にこの子合うんじゃないかなって思う子は結構公営住宅も空いていたりするので、そこを兼ねて少し住宅に住むにはちょっと全額敷金助成って書いていますけどこれはちょっと検討しますけど、そういうご家族がいるかもしれない。これ全国にこうやって広げたときには、もう本当3人でも4人でもいいかなあというところで、こういうのをやってみようじゃないかっていうことです。

金永委員

・そういうのは大事じゃないですかね。前のこの委員会で児童数が減ってくるんだとか、数年すると少なくなると、それからずっと続くというのがあったから学校との関係を心配してたんですけども、こういうね、できるだけ全国から可能性のある人は来てもらおうと。先手必勝で打ち出していくっていうのはいいんじゃないかと思いますが、都城も大分こういう形で発信して取り組んでいるから。地方回帰といいますね、地方に行く社会現象、自然回帰とかそういう社会現象が起きてるから、この田舎を紹介していくと、支援がすごいでしょう。家の方にサポートとかです。ね空き家を活用するとか、補助金とかいろいろあるから、やっぱり発信してできればね、少しでも来てもらうようなサポートは非常にいいんじゃないかな。いいアイデアだと思います。

恵利教育長

・正式に決定したらまたご相談したいと思います。もう1つは部活動方針ということでお願いします。

本田専門監

・部活動の方針ということで作成しているものでございます。今、地域連携とか移行とかいう話もあるんですけども、今いる子供たちが直面しているところに対応していくことができないかといったことです。一番上は、学校部活動を生徒の多様なニーズに応じて柔軟に運営することを目的に作りました。例えば、うちの町には部活動の種目がないという場合はこれまでであれば、部活動がある地域に住所を移して入学しなければならなかった。もしかするとそれで諦めてしまう生徒がいたかもしれない。そういう生徒がもしいた場合には、他の市町村教育委員会や学校と交渉をして、何とか在籍を変更せずに、部活動だけ行かせてもらおうということとはできないんだろうかと。実際例えば数の少ない部活動、ラグビーだったりは拠点校という形で他からも来ていいよっていうのをやってるところもありまして、そういった形ができないかということで、うちの方もこういったことを整備しておけば可能になるんじゃないかということで設けております。これが1点目です。また他が受け入れてくれない場合には、今、木城学園では女子バレー部が社会体育でやっているんですけども、都於郡中学生と合同チームを作って、試合等に出ています。こんなふうにすれば続けられることもあるんですね。それが2番目です。合同チームを編成するってことについての方針です。実際やっているんですけど一応ここに明記しております。3つ目に書いていることは、木城町には無い部活動で他校にはありますと言ったときに、在籍を変更せずに受け入れてもらえればいいんですけどもそれができない場合は、例えばうちの方で社会体育枠の部活動を作って、そして合同チームということで合わせてもらえませんか、システム上の話なんですけども、こういったことも可能になるといいなということで3つ目を設定させてもらっております。4つ目はうちから申し入れるばかりじゃなくて、他からの申し入れがあったときどうしようかということで設定したものです。このように子供たちが可能性を失わずにいろんなニーズに応じていけるようにということで、内規の方をしっかりと定めておこうということで検討中でございます。まだまだ検討材料がありますので、今後詰めていって、何とかたくさん子供たちのニーズにこたえられるような部活動になるといいなということで考えているところでございます。以上でございます。

鳴海委員

・このことについてはですね、木城の学校だけでということではなくてどうしても管内の小中学校、それからもしくは管外のもですが、いろんな影響が出てくるんじゃないかと思うので、ここは十分連携をとりながらですね、進めていってほしいと

思います。やり方としてはいいと思うんですけど、他町の協力、こっちも協力するか、いろいろその協力体制がありますので、うまく煮詰めていっていただいて、こんな形でできたらいいなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

金永委員

- ・実際、今こうやっているところもあるみたいで、それぞれ生徒数が減ってきて部活動の数も減ってきているから、自分がこれやりたいという部活動がないときに困るので、学校合同で部活動やっているみたいですね。これも文科省のほうも推進しているんじゃないですかね。拠点校ですか1ヶ所でやれるようにですね、この前の教育委員会との検討の会議でもこれも出てきてますので、拠点校作って一緒にやりますよと。高校の方でも野球なんかは合同チームとか普通にできてるからね。

恵利教育長

- ・その他何かご意見等がありましたら承りますがよろしいでしょうか。

金永委員

- ・県と郡の教育委員会の会議の中で、ここに出てきていることがやっぱり話題になっているみたいで、共通して多いのは不登校ですかね。どこも多くなってるというのがねありますね。特に西都、高鍋あたりは多くなっているというような報告もあってますね。ただうちの場合聞いてたのは校内教育支援センターが改善されたっていうのが出てきたから、そっちの方は報告をしておきました。それと先生方の働き方改革ですね。意見としては、私もなるほどなと思うところなんですけども、働き方改革、業務が短縮されたりとかいうふうになってくるんですけども、それと学力向上の関連に対する懸念。先生方の勤務状況は良くなるんですけども、授業に支障がないかというところで学力向上を心配されてるという面ですね。学力向上ということと、もう1つ関連してICT教育が入ってきて、方向性は絶対このまいますからね。どうしてもメリットデメリットがあってそのデメリットの面では、ICTは個別対応で非常にいいんですけども生徒の学習状況を把握できないと、1人1人の学習状況がどれだけ把握できてるんだろうとか、それに対する学習事項の定着ですね、どれだけ定着してるんだろうかという懸念ですね。それから部活動の地域移行ですね、あれについては生徒が多い西都とか高鍋で指導者の確保の困難性というところと、地域移行することによって、本来の学校の部活動がですね、衰退しないかなという心配ですね。いろんな視点でね、見ていかなくちやいかんだろうなと思ったんですね。

恵利教育長

- ・どうもありがとうございます。同じような課題というか、取り組みがどの市町村でもなされているわけですのでまた進展ありましたら皆さん方にご報告したいと思います。ありがとうございます。よろしかったでしょうか。次回の日程についてお願いします。

谷岡課長

- ・当初ご案内していたのは、令和6年12月26日木曜日でご案内していたかと思いますが、こちらの内部の事情もございまして、今回提案させていただくのが、12月25日水曜日午前9時からを、引き続き総合教育会議を10時半からということで計画をさせていただきたいと考えておりますがいかがでしょうか。
- ・それでは以上をもちまして、令和6年11月木城町教育委員会定例会を閉会させていただきます。

次回定例会日程

12月25日（水）午前9時00分からリバリス会議室

この会議録は、事実と相違ないことを証するため、ここに署名する。

木城町教育委員会

会議録署名委員

教 育 長 恵 利 修 二

委 員 金 永 俊 一